

村田製作所の成長戦略における知的財産部門の貢献

はじめに

村田製作所は、セラミックコンデンサをはじめとする電子部品で世界トップクラスのシェアを誇るグローバル企業です。その成長を支える重要な要素の一つが、積極的な知的財産戦略です。本稿では、村田製作所の成長戦略における知的財産部門の貢献実績について、入手した情報に基づき詳細に分析します。

村田製作所の知的財産戦略の概要

村田製作所は、「社是」にある「新しい電子部品を創造し、文化の発展に貢献する」という理念のもと、常に新しい技術・製品の開発に挑戦し続けています。¹この理念を実現するための重要な役割を担う知的財産部門は、研究開発部門と連携し、知的財産の創造、保護、活用を推進しています。²具体的には、知的財産グループが事業部に伴走し、知財活動を支援する体制を構築しています。²また、全社員に向けて知的財産活動基本方針を提示し³、研究開発部門を中心に知財活動推進責任者やパテントリーダーを配置することで、全社的に知的財産活動への意識浸透を図っています。²さらに、知的財産に関する階層・職能教育や知的財産に関する啓発フォーラムなどの様々な社内イベントを開催することにより、従業員の知財マインドを醸成しています。³

村田製作所は、特許、意匠、商標など、広範な知的財産ポートフォリオを保有しています。²特許庁との意見交換では、国内外合わせて2万5000件の特許を保有していることが紹介されています。⁴2023年の特許出願公開件数ランキングでは88位にランクインし、376件の特許を出願しています。⁵また、同年の特許取得件数ランキングでは28位、795件の特許を取得しています。⁵これらの知的財産は、自社製品開発だけでなく、ライセンス供与や他社との共同研究など、様々な形で活用されています。²特に、近年ではオープンイノベーションにも積極的に取り組み、外部技術の導入を加速させています。²また、海外売上比率の上昇に合わせて海外への特許出願等も積極的に行っており、グローバルな知的財産ポートフォリオの構築を進めています。³

Asset Type	Approximate Number	Key Areas of Application
特許	25,000 (国内外合計)	セラミックコンデンサ、通信モジュール、センサなど
意匠	情報なし	製品デザイン
商標	情報なし	ブランド保護

村田製作所の成長戦略における知的財産部門の貢献実績

(1) 知的財産による競争優位性の確保

村田製作所は、知的財産を駆使することで、市場における競争優位性を確保しています。

特許保護

□ □ 技術・製品に関する特許を取得することで、競合他社に対する優位性を築いています。例えば、セラミックコンデンサ分野では、材料技術、プロセス技術、設計技術など、多岐にわたる特許を取得し、世界トップシェアを維持しています。²これは、スマートフォン、自動車、家電など、幅広い分野で利用される電子機器の小型化、高性能化に貢献しています。

ブランド強化

商標や意匠などの知的財産を活用することで、製品のブランド価値を高め、顧客からの信頼を獲得しています。「ムラタ」ブランドは、高品質・高信頼性の象徴として、世界中で認知されています。⁶

模倣品対策

模倣品対策として、積極的に知的財産権を行使することで、自社製品の市場を守り、ブランド価値の毀損を防いでいます。⁷

リスク管理

村田製作所は、材料から製品まで一貫生産体制を構築しており、材料開発、プロセス開発、製品開発、生産技術開発を行う中で、適切なタイミングで他者の知的財産権を調査し、必要に応じて設計回避等の対策を講じています。³これにより、知的財産権に関するリスクを最小限に

抑え、安定的な事業運営を可能にしています。

(2) M&A と知的財産

村田製作所は、M&A を事業拡大と多角化の重要な戦略として活用しています。⁸ 知的財産部門は、M&A においても重要な役割を担っており、潜在的な M&A ターゲットの評価、買収後の知的財産資産の管理、シナジー効果の最大化などに貢献しています。¹

具体的には、LexisNexis PatentSight などの特許分析ツールを使用して、M&A 候補企業の技術力や特許ポートフォリオを評価し、買収の可否を判断しています。¹ また、M&A 交渉においては、知的財産の価値を定量化し、交渉を有利に進めるための材料として活用しています。¹

(3) 新規事業創出

村田製作所は、既存事業で培った技術やノウハウを基盤に、新規事業の創出にも積極的に取り組んでいます。⁹ 知的財産部門は、この新規事業創出においても重要な役割を担っています。

知的財産の活用による新規事業の創出事例

知的財産を活用した新規事業創出の例として、「KUMIHIMO Tech Camp with Murata」があります。⁴ これは、外部プレイヤーと共創し、新しい技術やアイデアを生み出すための取り組みです。⁴ 知的財産部門は、この共創活動において、知的財産の活用方法や権利化などのサポートを行っています。⁴

オープンイノベーションによる外部技術の導入

知的財産部門は、オープンイノベーションを推進することで、外部の優れた技術やアイデアを積極的に導入し、新規事業の創出を加速させています。²

(4) 企業価値向上

村田製作所は、知的財産を経営戦略に組み込むことで、企業価値の向上を図っています。

知的財産による企業価値への貢献度

知的財産は、村田製作所の企業価値向上に大きく貢献しています。⁴ 特許などの知的財産は、競争優位性の源泉となり、収益力向上に繋がっています。⁴ また、ブランド価値向上にも貢献することで、企業の持続的な成長を支えています。⁴

知的財産を活用した資金調達

知的財産を担保とした資金調達など、知的財産を有効活用することで、財務基盤の強化にも取

り組んでいます。⁷

村田製作所の知的財産部門の今後の展望

(1) 今後の知的財産戦略の方向性

村田製作所は、今後も「競争」と「共創」を両立させた知財活動を展開していく方針です。⁴ 特に、共創活動においては、「KUMIHIMO Tech Camp with Murata」のような取り組みをさらに発展させ、外部プレイヤーとの連携を強化していくと考えられます。⁴ また、グローバルな事業展開を加速させる中で、海外における知的財産権の取得・活用にも注力していくと予想されます。⁶

この「競争」と「共創」のバランスは、近年、多くの企業が重視するようになってきており、村田製作所もこの流れを汲み、将来の成功に向けて、知的財産戦略を進化させているといえます。⁴

(2) 新技術分野における知的財産活動

村田製作所は、モビリティ、エネルギー、ヘルスケアなど、成長が見込まれる新技術分野への進出を加速させています。⁹ これらの新技術分野においても、積極的な知的財産活動が不可欠となります。¹⁰ 特に、AI、IoT、自動運転などの分野では、ソフトウェアやデータに関する知的財産の重要性が高まっており、村田製作所もこれらの分野における知的財産戦略を強化していくと考えられます。¹⁰

(3) 「備えプロジェクト」と新規事業創出

村田製作所は、「備えプロジェクト」を通じて、長期的な環境変化に対応するための新規事業開発に取り組んでいます。¹⁰ このプロジェクトは、中期方針 2024 で掲げられた「長期環境変化に対する備え」という考え方にに基づき、将来の社会課題や市場変化を見据えた技術開発と事業創出を目的としています。¹⁰ 知的財産部門は、このプロジェクトにおいても、新規事業の創出、知的財産の保護、リスク管理など、多岐にわたる役割を担うことが期待されます。¹⁰ 特に、エネルギーソリューションなどの分野において、知的財産戦略が重要な役割を果たすと考えられます。¹⁰

(4) グローバルな知的財産管理体制

村田製作所は、グローバルに事業を展開する中で、知的財産の管理体制の強化にも取り組んでいます。⁶ 特に、海外子会社における知的財産管理の徹底、グローバルな権利化戦略の策定、海外における模倣品対策などが重要な課題となります。⁶

考察

(1) 知的財産部門が村田製作所の成長にどのように貢献してきたか

村田製作所の知的財産部門は、上記のように、競争優位性の確保、新規事業創出、企業価値向上など、様々な形で同社の成長に貢献してきました。²特に、コア技術・製品に関する特許の取得と活用は、村田製作所が世界トップクラスの電子部品メーカーとしての地位を確立する上で重要な役割を果たしています。²また、近年では、オープンイノベーションや共創活動を通じて、外部の技術やアイデアを積極的に取り込むことで、新たな成長の原動力となるような新規事業の創出にも貢献しています。⁴

(2) 知的財産部門の強みと課題

村田製作所の知的財産部門の強みは、以下の点が挙げられます。

- **経営層の理解と強力なサポート:** 経営層が知的財産の重要性を深く理解しており、知的財産部門に対して強力なサポート体制を提供しています。²
- **事業部門との連携:** 知的財産部門と事業部門が密接に連携し、一体となって知財活動を推進しています。²
- **グローバルな視点:** 海外における知的財産権の取得・活用にも積極的に取り組んでおり、グローバルな視点を持つ人材を育成しています。⁶
- **高い専門性:** 知的財産に関する専門知識・経験を持つ人材を豊富に擁しています。¹
- **人材育成:** 知的財産に関する階層・職能教育や啓発イベントなどを実施し、従業員の知財マインド向上に努めています。³

一方、課題としては、以下の点が挙げられます。

- **新技術分野への対応:** AI、IoT、自動運転など、新技術分野における知的財産戦略の強化が求められます。¹⁰
- **人材の確保・育成:** グローバルな知的財産管理体制を構築・運用していくためには、より多くの優秀な人材の確保・育成が不可欠です。⁶

(3) 今後の知的財産部門の役割と重要性

技術革新が加速する現代において、企業の競争力を維持・強化していくためには、知的財産戦略の重要性がますます高まっています。⁹村田製作所においても、今後の成長を **sustain** するためには、知的財産部門が以下の役割を担うことが重要となります。

- **新技術・新製品の開発を促進:** 知的財産情報を活用することで、研究開発の効率化を図り、新技術・新製品の開発を促進します。⁹
- **競争優位性を強化:** □□ 技術・製品に関する知的財産権を □□ し、競合他社に対する優位性を強化します。²
- **新規事業を創出:** オープンイノベーションや共創活動を推進することで、新規事業の創出を加速させます。⁴
- **企業価値を向上:** 知的財産を経営戦略に組み込むことで、企業価値の向上に貢献します。⁴
- **リスクを管理:** 知的財産リスクを適切に管理することで、企業の安定的な成長を支えます。⁷

結論

村田製作所は、これまで積極的な知的財産戦略を展開することで、持続的な成長を遂げてきました。⁸ 知的財産部門は、研究開発部門や事業部門と連携し、知的財産の創造、保護、活用を推進することで、競争優位性の確保、新規事業創出、企業価値向上に貢献しています。² 今後も、グローバルな事業環境の変化に対応しながら、知的財産戦略を進化させることで、さらなる成長を目指していくと考えられます。⁹ 特に、「競争」と「共創」のバランス、「備えプロジェクト」を通じた長期的な視点、そしてグローバルな知的財産管理体制の強化は、村田製作所の将来を左右する重要な要素となるでしょう。

引用文献

1. 知財に求められる ビジネス創出に貢献する力 - YouTube, 1月 11, 2025 にアクセス、<https://www.youtube.com/watch?v=xyh6Rrn5lq>
2. 株式会社村田製作所と意見交換を行いました | 経済産業省 特許庁, 1月 11, 2025 にアクセス、<https://www.jpo.go.jp/news/ugoki/202307/2023071901.html>
3. 村田製作所『屈辱から始まった「攻め」の知財経営』, 1月 11, 2025 にアクセス、<https://yorozuipsc.com/blog/7737555>
4. 知財を開放してスタートアップと共創する、村田製作所のプロジェクト「KUMIHIMO Tech Camp」とは?, 1月 11, 2025 にアクセス、<https://chizaizukan.com/pickup/interview/5og7h0HStoctofxQ3zGkIP/>
5. 株式会社村田製作所の特許出願公開一覧 2023年 - IP Force, 1月 11, 2025 にアクセス、<https://ipforce.jp/applicant-1480/2023/publication>
6. 統合報告書における「知財・無形資産の投資・活用戦略の構築・開示・発信」の優れた日本企, 1月 11, 2025 にアクセス、<https://yorozuipsc.com/uploads/1/3/2/5/132566344/9e76eef020bf6ab5cf1b.pdf>
7. 特許売買でビジネスを成功に導く!! 日本企業の成功事例とその秘訣とは, 1月 11, 2025 にアクセス、<https://vision00.jp/column/9417/>
8. 村田製作所の事業拡大を支える知財部門 戦略策定から事業部門・経営企画部門と連携し進める M&A の全容 | Biz/Zine, 1月 11, 2025 にアクセス、<https://bizzine.jp/article/detail/7582>
9. 村田製作所の成長戦略と技術革新：2030年への挑戦 - コントリ, 1月 11, 2025 にアクセス、https://comtri.jp/30_column/murata/
10. 【(株)村田製作所】新規事業推進部「備えプロジェクト」を担う、技術イノベーション戦略部 部長に業務内容・やりがい・将来像についてインタビュー! - タイズ, 1月 11, 2025 にアクセス、<https://www.ee-ties.com/magazine/384553/>